

〔翻訳〕

学習しょうがいのある青年のための地域ケア — 青年達の想いをもとに — (その3)

Janice Sinson 著

橋本由紀子 和泉とみ代 加島美智
小谷 尚子 池知 孝亮 平野剛士 訳*

〔翻訳にあたって〕

本論は、イギリスにおける学習しょうがいのある青年への教育とその後の地域生活の実態について、特殊学校ウェンドウッド校の卒業生、家族、職員を対象に面接調査を行ったものである。この報告は、彼ら自身の言葉で話し、彼らの目を通して見たり感じたりしたことがそのまま述べられている。第2章では、ウェンドウッド校を卒業し、在宅で生活をする学習しょうがいの人たちの生活実態について紹介されている。家族と一緒に在宅生活をしている学習しょうがいを持つ人たちの多くは、グループホームや自立生活をする人たちと比べて、ウェンドウッド校で取得した技能や能力の多くを失う傾向にある。親の彼らに対するあり余る愛情が、ときには過保護や過干渉という形で表現されることに関係があるかもしれない。しょうがいを持つ人たちが、家族と在宅生活をしていく意義やまたその親としての役割とは何かが明らかにされている。

原著は、Janice Sinson, *Care in the Community for Young People with Learning Disabilities—The Client's Voice*, Jessica Kingsley Publishers Ltd. London, 1995 である。

橋本 由紀子

* Yukiko HASHIMOTO 吉備国際大学教授、Tomio IZUMI 香川短期大学教授、
Michi KASHIMA 四国学院大学大学院社会福祉学専攻、Naoko KOTANI 四国学
院大学大学院社会福祉学専攻、Kōske IKECHI 四国学院大学大学院社会福祉学専攻、
Tuyoshi HIRANO 四国学院大学大学院社会福祉学専攻。

凡例

1. 訳文の書体は原著の表記にしたがっている。
2. 面接部分の斜体字は面接者、標準体は被面接者である。ただし、被面接者が2人以上の場合は、サービス利用者の回答を太字で、その他は標準体で示している。

自宅で暮らす若者達

在宅生活

卒業生の30%は在宅生活をしているが、環境はそれほどよいとは言えず、全体的に見てグループホームで生活する人や自立生活をしている人々より、本来自分に来る能力を非常に多く失ってしまっている。このグループのウエンドウッド校での最終評価の成績は他の2グループのそれと類似していた。物理的生活環境や学習の機会はこの2グループより、在宅生活の方がより恵まれていた。在宅生活をする大多数の事例では、仕事や仕事の機会、カレッジや成人センターで学ぶ機会を十分に与えられているようだ。在宅生活をする人たちの就業の状況は、他の卒業生のものとよく似ていた。しかし家族にとって成人センターは在宅の女性にとって利用しやすく、より好まれているようだった。

在宅グループのうち、単親が圧倒的に多く、卒業生のほとんどは、同じようなしょうがいを持つ仲間と交流を持ちたがらなかった。残念なことに、高齢になった親の最大の関心事は、子どもの満足と幸福である。子どもたちを熱愛する親によって、甘やかされ育った彼らを見ることは悲惨である。彼らは、小さな子どものように入浴、着替え、食事を世話される。職場に一人で通勤している卒業生たちでさえ、夜、家に帰ると甘やかされている。孤独な親の多くは、息子や娘の幸福が人生の生きがいとなっている。

トレバー

次に例として挙げたライフスタイルはごく一般に見られる典型的な例である。ある母親の例なのであるが、彼女は自分の20歳になる息子が食堂で働いているにもかかわらず、温熱調理器に触れたりするといけないので、家の中では息子を

一人にさせないというほどに過保護に育てているのだ。両親が息子のためにすべての事をしてしまい、さらには両親が出かけるときは常に息子を連れて行くのだ。彼を世話するヘルパーを雇うことも、彼を一人で居させることもできなかったの。両親は大晦日のパーティーに招かれてもずっと拒否してきた。トレバーはウェンウッド校を卒業してから、主に刺激的で興味深い仕事をするを通して、21の技能を獲得していた。彼はまた、グループホームで半自立生活を営むために求められる重要な9種の技能を失った。彼は他との接触のない生活を送り、仕事に行くか親と出かける以外は実家を離れたことはなかった。

母親

トレバーが仕事から帰ってあなたがいなくてどうなりますか？ 私はいつも家にいます。彼は料理をしたり朝ご飯を準備したりしますか？ 私たちがします。夫は仕事に行くので4時に起きて朝ご飯を自分で作ります。トレバーは私と一緒に起きます。私たちは同じ時間に起きます。私はちょっとした仕事があるので6時に起きます。トレバーは7時に出かけ私は7時20分に出ます。

トレバー、あなたは朝何時に起きますか？6時かな？何時に寝るの？10時だ。早いよね、疲れているからですか？いいえ。トレバーのために10時にカーテンを閉めるのですが、11時15分前まで寝ようとはしません。それで毎晩あなたは彼を10時にベッドに連れて行くのですね。そうです。週末はどうしているのですか？週末はゆっくりと起きます。トレバーは、土日は寝ているのが好きですから。

他の家族は、子どもと一緒に在宅で暮らすことを決め、長くかかっても子どもがよい仕事につくことができれば、その仕事を続けられるという理由付けをし、そのことを証明するために多くの時間を費やしている。一方、子どもたちは、在宅暮らしは孤独であると感じ、自立生活に必要な技術の多くを失い、もはや半自立生活を継続的に営むことが出来ない状態になっている。

ジュリー

24歳のジュリーは、電子機器の会社で難しい仕事をしている。彼女は、ウェンウッド校を卒業してから何の技能も身に付けておらず、20種の貴重な自立生活技

能を失っている。

母：私たちはジュリーの将来がどうなるのか心配しています。私たちは娘が家にいることを望みました。彼女の友達の一部は、アパートで一人暮らしをしていますが、ジュリーよりもたくさんことができます。しかし、夫は私が娘の一人暮らしを快く思っていないのなら、ジュリーは誰かと一緒に住んだほうがよいと言っています。私は1ヶ月間不在で、夫は2週間後に戻ってきました。夫は、私がいなかった2週間は、たった2週間でも、誰もいない家に毎晩戻るのには寂しかった、と言っていました。夫は、ジュリーが一人で対処できるとは思えなかったのです。

アマンダ

アマンダは背が高く、魅力的で着こなしのセンスも良い22歳の女の子であった。彼女は恥ずかしがり屋ですぐに退屈する傾向であるが、とても礼儀正しい。彼女は2年前にウェンドウッド校を卒業してから、現在、全く異なる2つの大学のコースで学んでおり、毎朝、田舎の農場にある自宅からバスを1回乗り替えて通学している。毎日、1つ目の大学から同じ町にあるもう1つの大学に徒歩で通っている。両親は彼女が乗りそこなうと移動が難しくなるので、いつも8時出発のバスに乗れるよう車で送っている。アマンダは、カード遊びに熱中する所があって祖母、時には父親を負かすこともあった。彼女はホイスト(4人トランプ)、ペイシェンス(1人トランプ)、ラミー(二組でするトランプ遊び)をするが、お金の計算をしたり、取り扱うことが非常に苦手であることが分かった。

アマンダは、ウェンドウッド校では皆に好かれ、平均的な学生であり、劇的ではないが、安定した進歩をしていた。家に戻ってから、彼女は二つの技能を失ったが、ウェンドウッド校での最終的な評価時から5つの技能を獲得し、充実し、比較的自立した生活を送る事ができた。彼女の両親は彼女に下りたお金を自分で管理する事を許可していた点は異例だった。彼女は郵便局からお金を引き出した後、どのように遣うか考えた。インタビューの結果、彼女は自分の生活を自己管理出来ていることに満足していると分かったが、内気であり自分から話さなかった。そういうわけで、最後の質問に対する彼女の答えは少し意外であった。

母親

アマダはウェンドウッド校に行つて何を学びましたか？ 娘は家を離れる前まで、離れることを嫌がっていました。アマダ：すごく泣いたわ。始めの頃、ウェンドウッド校を娘は嫌っていました。3週間後にアマダのきょうだいを連れて訪ねた後、帰つてきて思い出して憤慨しました。きょうだいはアマダをウェンドウッド校に入れたことは良くなかったと言つたのです。しかし、それからは、娘はウェンドウッド校での暮らしを気に入っていました。私は、娘が自立できるようになっていっていると思ひました。娘がさまざまなことができるのを見て、信じられませんでした。家では娘にこのようなことをさせるのを恐れてできませんでした。休みには、娘は1人で列車に乗つて家に帰つてくるのです。

アマダは自分のお金をすべて管理していますか？娘はお金をすべて寢室に置いています。そして、いつも私たちは信託銀行に貯金するように娘に言ひます。娘は髪や服などにお金を遣つています。娘にお金の遣ひ方を教えるのは並大抵ではありません。お金を遣うのが苦手なのです。娘さんはあなたのお金を遣うのですか？娘さんが自分のお金を遣わないのなら、あなたが出すのですか？いいえ。娘は自分のお金を遣ひます。

アマダ、あなたができるようになりたいけど難しいことは何ですか？私はお金をうまく遣えないの。お金をうまく遣えないのが悩みなのね。はい。なぜ？私はお店で、お金を払うことがうまくできない。あなたはそれで悩んでいるのね。はい。あなたはお金をうまく支払えるようになりたいのね？はい。ほかに悩みはある？お金のことだけです。カレッジではお金の遣ひ方は習つたの？ はい。難しかった？ はい。特にどういうときに？私は店員にお金をうまく支払うことができないの。それが悩みなのね？はい。でも、村のお店へ行つてお金を支払うことはできるね？はい。おつりはどう？店員がおつりをくれるの。おつりの計算ができないの。あなたの唯一の悩みはお金の支払いで、他のことは問題ないの？はい。

アダ

アダは、28歳で、ほぼ独立した生活を送っている。彼女は弱視で、働いていないときは家で一人で過ごした。このことによって全体的に技能を高め、一つの技能

を失っただけだった。彼女の母は、自分の相反する感情について述べた。

母親

あなたができなくて、ウエンドウッド校ができたのはどんなことですか？ 私はウエンドウッド校のおかげで娘が自立心を持ったと思っています。娘がバスに乗って出かけたときなんか・・・私だったら娘にさせなかったでしょう。

これまでに彼女にそうさせたことはありましたか？ 分かりません。結局のところさせたいと思いますが、分かりません。あるとき、娘はウエンドウッド校から帰ってきて、一人で住みたいと言ったんです。私はそうさせたくなかったのですが、認めました。しかし学校から認められなかったのです。なぜですか？ 彼女は一人暮らしには適さないと言われました。

誰かと共同生活することはどう思いますか？あまり賛成しません、もし娘が希望するならば、させますが・・・娘はうまくはやっていけないと思います。

あなたが年をとると彼女はどうなると思いますか？分かりません。ただ、こういうわけで娘はいろんなところに行って、全てのことは自分でしたいと思っているのです。私は娘のために他の子どもたちが彼女のそばにいてくれることを希望します。

あなたは娘さんと他のきょうだいが一緒に生活することを望んでいるのですか？もし何かが起こったとき、娘は一人では生活できないので、他の子どもたちと暮らしてくれることを望みます。娘は寂しがり屋なのです。

ニック

25歳のニックは家を出たいという願いはなく、自分の生活に大変満足していた。造園のために必要な重要度の低い6つの技能を修得していたが、18の重要な自立のための技能を失った。母親は彼の世話をして満足だったし、ニックも家に住むことで満足していた。ニックは、半ば自立した生活に対応することがかなりできるようになり、ウエンドウッド校を卒業した。しかしながら、たとえ彼がよく造園仕事ができても、現在、自立して生活していくことが出来そうにない。

母親：近所に寮ができたとき、そこに住まないかと誘われました。そこは遠いのですか？ちょうど道の向こうです。ニックは毎晩、家まで歩いて来れたわけです

か？ええ、そうです。でも、息子が自立するためには距離は関係ありません。そこに住んでいる人から文句が多いので、息子をそこまでして住ませたくありません。

ニック、あなたは、家を出たいですか？いやです！どうして？私は、家族や友人と離れたくはありません。自立について話はどうなったの？一人で生活したり、自立したりすること、あなたはそうしたくはありませんか？いやです！もし、一人ではなくて、となりに住んだらどう？あなたは、友人に会うことができるのではないですか？いいえ、お母さんに今ほど会うことができません。私は、毎日、ここで生活します。あなたはここで毎日暮らすことが好きですか？ええ、はい。

もし、あなたがお母さんと一緒に家で住み、ウエンドウッド校でした全てのことをすることができるならば、そうしたいですか、仕事もできたら良いですか？私は、ウエンドウッド校でしたようなことをしたいです。あなたは料理することができますか、もし、お母さんが病気ならば、何か料理ができますか？はい、できます。

お母さん、ニックは料理することができますか？息子はウエンドウッド校では料理をしました。しかし、家では料理しません。トーストは作ります。息子は、自分の朝食だけを作ります。じゃあ、お母さんは料理を全てするのですか？はい。洗濯物とアイロン掛けも全てします。息子は、部屋を掃除することになっています。部屋をきれいにします。戸棚に服を押し込みます。お母さん、実はあなたは彼に行っていほしくない、離れて暮らしたくないのではないのですか？いいえ、私は、独りで大丈夫です。息子は本当に何の問題もありません。たくさん笑うし、心配はありません。

サンドラ

サンドラは28才で、他と異なる特別な関心を持っていた。互いに1マイル以内の近所に住むトムとジョンと一緒にウエンドウッド校に行ったが、今は卒業し、トムとジョンはホステルに住んでいる。サンドラは読書が好きで、コンピューターを使って手紙を書くし、クラシック音楽にも興味がある。話し方も上手で素晴らしいコミュニケーション技能を持っている。サンドラだけが面接者に細かい質問

が出来、趣味の音楽に関して話をすすめたり、図書館の本を持ってきて、自分が難しいと思うところを話して聞かせた。彼女のIQは35から40と記録されている。離婚している他のきょうだいと一緒に住んでいて、母親は介護関係のパートの仕事をしている。サンドラは、成人教育センターに毎日通いメンシップクラブには毎週行き、トムとジョンに会う。彼らと一緒にウェンドウッド校で2年間の訓練コースを受け、同じ土地に帰ってきた。公共施設に通う事は彼女にとってこれまでの生活とは非常に異なるものとなった。10年前にウェンドウッド校を卒業し、帰って来てから1度も一人で出かけたことはない。毎年2週間はレスパイトケアで過ごし、そこですぐに落ち着いたようだ。その2週間以外はいつも母親と一緒に、コンサートや美術館のような彼女の行きたいところには母親が連れて行った。親戚がいてパーティーにはいつも母親と共に招かれた。多くのウェンドウッド校卒業生とのインタビューで、ほとんどが、仕事や楽しいこと、自立に関して家族に話せないでいる（ウェンドウッド校にいたときは話せたのだが・・・）。卒業後、家で暮らしている人にとってウェンドウッド校は全く異なる環境になってしまっている。そして、ウェンドウッド校で行っていたことを実践しないため、概してウェンドウッド校で習得した技能を継続することができない場合が多い。自宅で暮らすことは、近所に多くの施設があってもサンドラのようにうまく利用する機会とならない場合もある。

ウェンドウッド校の最終評価からの抜粋を読むと、卒業後のサンドラのライフスタイルに大きく影響する技能があったはずである。

ウェンドウッド校の最終評価抜粋

よい点

親しみやすく、元気がいい。興味のあることに対しては、はっきり述べる。生活環境の変化をよく理解できる。時事問題や小旅行、コンサート、社会的な行事に興味がある。注意書きを読み、それに対して行動をとり、記憶しておくことができる。

弱点

他の人と一緒のときは、道路の安全性は全く考えない。しかしながら、町に一人で出かけ、用事をし、無事に戻ってくる。

サンドラは、ウェンドウッド校で何をしていたのですか？託児所で子どもの世話をしていました。子どもたちはいつもいい子でした。子どもたちと一緒に何をしたのですか？遊んでいました。子どもはどうやって託児所に行きましたか？バスに乗っていきました。一人で行ったのですか？はい。もし、ここに子どもたちの託児所があったら、ここで働きたいですか？はい。センターに聞いてみたらどうですか？託児所はないのです。でも子どもたちが道を横切するためには旗を持って立っている人がいます。ええ、知っているわ。サンドラはそれがしたいの？はい。サンドラは子どもが好きですか？はい。家族の中に子どもはいないのですか？いいえ。ウェンドウッド校でしたことは託児所の子どもたちとのことですか？はい。皆でバスとブリストルのコンサートに行ったことです。母親が会話の中に入ってきた。

サンドラがウェンドウッド校で子どもたちと一緒に仕事をして楽しかったことを話しましたか？サンドラそうだったの。子どもたちと一緒に何をしたの。なんてすばらしいの。私はサンドラが託児所ではなく美容の仕事をしていたのを知っています。サンドラ、あなたが仕事をしたのは苗床ではなかったの？いいえ託児所よ。サンドラは私に話したことはなかったわ。もし、お母さんが保育園を見つけたら、仕事に行きますか？はい。それはウェンドウッド校で決められた余暇時間と呼ばれていました。私はとてもよかったと思うけど、全てスケジュールが決まっていたわ。他のこともすべて同じだけど、娘のそばにいつも居なければならぬの。センターから老人ホームで働いてもらおうと要請されたけど、娘は働きたがらなかったわ。娘は掃除をすることはできたけど、ただ音楽が聞きたいだけなの。もし娘が老人ホームへ行きたがらないなら、ほこりを取ったり、流しを洗ったりすることを娘がする理由はないわ。私はそういうことをしてとても楽しんでいる子どもたちを知っています。その子たちはそうすることを楽しみ、それで誉められることが好きなの。でもサンドラは、そういう子じゃないの。働きたくないの。娘がウェンドウッド校を卒業し帰ってきたとき、寮に住んで欲しくありませんでした。なぜなら寮についてそんなに真剣に考えなかったからです。今では改善されたかもしれませんが、当時は、寮について好ましくない噂が多かったのです。娘は無人島で生き延びようと思えばできるくらいでした。一人ぼっちでした。よく行くクラブでも一人も友達はいませんでした。娘は寮で一人はなれて生

活をしたくはなかったのです。私は一時寮生活について考えました。しかし、そのとき、町で1つ、2つ気になる寮に関する出来事が起こったのです。そして私はこのような場所に、娘に行って欲しくないと感じていたのです。私は娘にウエンドウッド校にもっと長く居て欲しかったのです。しかし、ウエンドウッド校には長く居られなかったのです。もはや、彼女はそれ以上いることはできなかったのです。サンドラはよくウエンドウッド校から列車に乗ったものです。そして、私は駅で電車から降りてくるのを迎えていました。彼らがウエンドウッド校に戻っていくときは、私はタクシーを呼んで、彼ら4人を乗せて、駅に送り列車に乗せ、彼らはメルクシャン駅で列車を降りていました。

あなたは、彼女の将来をどう思いますか？全くわかりません。私は娘の将来についてあまり考えないことにしています。彼女は毎年2週間のレスパイトケアに行きますが、娘はそのことについて満足していません。私は、どこに行ってもそうですが、特に都市ではしょうがいを持つ若者は弱い立場にあると思います。なぜですか？そう思うからです。

シャーリー

シャーリーは、ダウン症候の非常に体格の良い24才の女性である。シャーリーは、母と一緒に暮らしていて、教会に熱心に通う、家族関係の強い西インド諸島出身の家族である。3人の子どもたちはジャマイカで生まれ、1番年下のシャーリーが8才になるまで、祖母によって育てられた。そのころ母親が英国でよい職につき定住した。そして祖母は3人の子どもを連れて母親の元に移り住み、母親が働いている間は、祖母が子どもたちの世話をした。そして、歴史は繰り返すと言うが、シャーリーの母が看護師の仕事を退職し、彼女の娘の子どもたちの世話をしている。母親が帰宅する前に娘の一人にインタビューしたが、家族の中でのシャーリーの立場を明確に話してくれた。もう一人のきょうだいは、未婚の母であるが、連絡を取るのにずいぶん苦労したが、やっとインタビューできた。

シャーリーは、ウエンドウッド校卒業生のなかではやや成績の劣る学生の一人であり、家に戻ってから、1年間のうちに21の技能を失った。面接者は、シャーリーがウエンドウッド校の自立棟で彼女が料理をする様子を見、そのあと一緒に昼食を食べた。昼食の間となりに座り様子を見ていたが、シャーリーは良い社会

的技能をもち、満足の行く会話ができていた。記録にはウエンドウッド校ではそれほど楽しくはなかったが、休暇にはスタッフと一緒にキャラバンを組んで旅行し、「彼女は忙しく立ち回り、賢明で非常に役に立つ」と記されている。シャーリーは、料理や掃除、洗い物を最後までし、座って休んで良いよ、と言われるまで働いていた。さらに記録には、決まった手順の仕事はあまりやる気がないと書かれている。また、授業中はやる気を出させるのに大変だった。シャーリーの自分のことを自分でする技能は、得意なことも苦手なこともあった。ウエンドウッド校の健康衛生学の学習に加え、彼女は、髪を整えることや体にローションを塗る、顔にクリームを塗ること、などが苦手だった。そのほかにどんなことが苦手だったかは明記されていないが、家でスムーズではないにしてもこれらのことがすべて出来ていたのに、ウエンドウッド校では忘れてできないこともあった。

いかに自立生活をお決まりの言葉で褒め称えても、西インド諸島の文化では、この動きを歓迎しそうにない。シャーリーはある研究の対象者となっている。その研究とは、ある文化では、完全に独立した生活に向けての最近の教育が、全てのしょうがい者にとってふさわしいとは限らないことを示している研究である。シャーリーは自分の生活についてほとんど話さないが、実家で自立した生活をすることが幸せそうである。

シャーリーのきょうだい

ジョゼフィンは、近くの大学に通い、魅力的で非常にはっきりとした学生だった。彼女は、家族の社会生活が、教会を中心に回っており、シャーリーはそれを楽しんでいると述べた。ペンテコスタル教会は家族中心主義の教会である。礼拝のためだけではなく、教会の中で親戚に会うことがよくあるので、多くの家族が訪れる。西インド諸島の人々は信心深く、教会に熱心に行くだけでなく、幼いころから神への信仰心が強い。幼いころからずっと信じているかどうかは、個人の信仰心にもよるが、この教会の信者の80パーセントは若者である。

お母さんはシャーリーがウエンドウッド校に行くことについては賛成でしたか？母は妹が1990年までは帰って来ないと言い続けていて、1990年は母にとっては永遠のように感じられていました。その意味では、妹が出て行くことは悲しかったと思います。母は妹が家にいることこそ最高だと思っていたのです。

お母さんは年老いたらどうするつもりでしょうか？そうですね、母は何か計画を立てていました。しかし、私は、お母さんがもしいなくなっても、私たちが周りにいるのだから大丈夫よと言いました。でも、母はとにかく何事についても話し合わなければならぬ、と言いました。私たちとは誰のことですか？私の妹と私自身のことです。あなたは、残りの人生ずっとシャーリーの面倒を見るつもりですか？かまいません、私の妹だし、いつでもシャーリーと一緒に住む用意ができています。本当に、私は妹が離れて暮らすよりも私といるということを感じていたいのです。実は正直なところ、私の妹も母と一緒に暮らすことを望んでいることが重要なのです。私は、シャーリーに去って欲しくないのです。でも、あなたの人生全てをかけて妹さんの面倒を見るのは大変なことですね。それはそんなに大それたことではありません、彼女は私の妹だからです。特に私が妹と一緒にいるのですから、どうして面倒を看ないと言えるのですか。家族を持たないものにとって一緒に暮らす心の支えになるでしょう。

あなたは本当に最後までシャーリーの面倒を引き受けるつもりですか？私は間違いなくそうするでしょうね。あなたに子どもがいたとしても？はい、妹は自立しているし、私に子どもがいても余分な手間はそんなにかかりません。妹は一人で出かけられないけれど、今私が戻ってきたので、妹は変わると思っています。母も自分のためにも変わることを望んでいます。私は今までここにいなかったので、母に変わるべきであると説得できていません。私は妹が好きです、そして、私と一緒にいるのを確認してたいのです。家族ですから離れて他人と一緒にいるより、家族一緒にいる方が幸せです。もし、あなたが結婚したり、誰かと一緒に住んだ場合、相手がシャーリーにいてほしくないと言ったらどうするの？私が選んだ人は状況を理解してくれることを望みます。

お母さんがシャーリーを連れて行くようにあなたに頼んだのですか？いいえ。お母さんはあなたがそうするだろうと思うのですか？いいえ。母はシャーリーが長く住める近くの場所を探すよう計画しています。私たちにはまだ詳しく話していません。言うまでもなく、私たちはシャーリー自身が何を望んでいるのか理解しなくてはなりません。シャーリーはそれぐらいのことは自分で決められるでしょう。

お母さんが病気になったら、シャーリーはお母さんの世話ができますか？ええ、

シャーリーは母に紅茶や食べ物を作ることはできます。シャーリーはもっとたくさんの方ができると思います。でも、今は母が過保護すぎるのです。

母親

大学で娘さんは何をしますか？大学で習っていることは、以前にも学んだことです。たとえば、読み書きです。私たちは娘に読書やほかの事に興味を持たせることができません。娘は全然興味がないのです。誰かが娘をスイミングに連れて行きますが、それがボランティアなのかどうかは分かりません。その人はキーワーカーですか？分かりません。娘さんにキーワーカーはいますか？誰がそうなのか分かりません。

娘さんは一人でバスに乗らないのですか？はい。それが娘の問題なのです。私が娘をかばいすぎると言います。娘は自分に体験させてほしいと言いますが、それは難しいのですよ。それは簡単な道程ではありません。娘に何の問題もありません。ただひとつ問題は、問題というほどではなのですが、私が買い物に行ったとき、娘を一人で置いて行けないのです。どうして？もし誰かが、ドアの近くにきたら、シャーリーはすぐ開けるでしょうね。ドアにチェーンはかかっていますか？ガラスのドアにはかけられないわ。娘さんの将来をどう考えていますか？シャーリーにどうしてほしいですか？分かりませんが、ソーシャルワーカーと話をしたとき、住宅をいくつか建てるつもりのようなようでした。どれくらいかかるかは分かりません。娘は面倒をみてくれる誰かと一緒に家で、4人で暮らすことができます。でも、娘さんが一人で出かけられるようにするべきでしょう？はい、分かっています。(笑い) あなたが娘さんと一緒にいることの主な問題は何ですか？本当に分かりません。娘は孫の面倒をみています。

タラ

タラは20歳であるが、父親と暮らしている。父親は彼女の生活に極度の干渉をしているように思われる。タラの生活は家族と一緒に生活している卒業生の生活スタイルの最も典型的な例である。親の干渉のため、数々の女性は様々な方法で月経を止める処置をされている。ウェンドウッド校では、どんな場合でも月経の時期にどのように対処すればよいのかを教えつづけてきたという証拠が明白に残

されている。だから、もしそのような知識なしにウェンドウッド校に入って来たとしても、卒業時には上手く対処できるようになる。

タラは魅力的ではっきり物事を言う若い女性で読み書きもしっかりしている。ウェンドウッド校で最もできる学生の一人というわけではなかったが、卓越した会話力を持っていた。2年間、家で住んでいる間に彼女は7つの生活技能を失った、そして普段あまり使わなかったためにもっと多くのものを失ったのである。彼女の父親は娘の成長に気を遣い、最近になって彼女に時間を効果的に告げるために、おしゃべり時計を提供した。父親は面接のほとんどに出席し、タラはぶしつけに反応した。

タラは大学への出席や近所の人としゃべる夜の1、2時間以外は、残りの時間のほとんどを、自分の目の届かない所に娘が行くと不安がる父親と一緒に過ごしている。父親は、休日には娘に服を買ってあげ、洗濯をし、掃除をし、料理もする。タラは自分自身のお金に責任を持ち、家賃を払い郵便局から年金をもらっている。彼女もまた大きな町にある大学まで1人で行くことができるのである。

あなたは、帰り道に一人で買い物をしていきますか？いいえ、行きません。お父さんは私が一人で町に行くのを許してくれません、でも、近くでお父さんのためにミルクを買います。私は郵便局で手当を受け取り、それからまっすぐに家に帰って、お父さんと一緒にどのように使うか話し合います。

どのようにそれを振り分けますか？お父さんが私の生活費のために半分を取り、洗濯代と明日に必要なだけ取り分けます、そして私はその残りを取ります。私は、銀行預金口座と郵便局の帳面を持っています。お父さんは買い物をします。私は買ったものをきちんと整理します。お父さんがちゃんと買い物できるように助けてくれます。私たちは金曜日に買い物に行きます。そして、時々コーヒーや紅茶を後で飲みます。

誰が、あなたの21歳の誕生パーティーに来てくれますか？お父さんが私のためにパーティを開いてくれます、みんな招待します、そうでしょう、お父さん。お父さんの仕事仲間、およそ12～3人くらいは来ます。

父：全て私が料理をします。

大学（オープンカレッジ）で料理をしますか？ はい。電子レンジを持っていますか？ はい。あなたはそれを使おうと思えばできるのね。お父さん

はあまりにも難しいといいますが、そうでしょう、お父さん。はい、娘にとってあまりにも難しすぎます。お父さんは日曜日、洗濯をしていて忙しいのです、そして、洗濯が終わるころには、夕食の時間になります。その後、お父さんが掃除するのよね？ タラ、あなたが床の掃除をしたらいかが？ タラは、バケツの中の水より床にたくさんの水をこぼしてしまいます。お父さんがします、私よりも上手なので。あなたは全てのお金を管理できるとても賢い女性なのですよ。

タラ、大学で悲しいことや、うまくいかないことがあったらだれに相談しますか？ お父さんです、毎週月曜日に！ 娘はウェンドウッド校から帰ってきて、少し消極的になりました。しかし、今年は過去2年間より積極的にになりました。オープンカレッジに行って、どうして娘が帰ったのか聞いてもちゃんと答えてくれません。

お金はちゃんと管理できますか？ いいえ、あんまり。買い物に行くときはどうするの？ 1ポンド渡しておつりをもらうの、でも、もうコーラは買わないわ、だってやせなきゃなんないものね、お父さん？ コーラはいくらだった？ 覚えてないわ。お父さんのミルク代も一緒に払うから。いくら払うの？ 65ペンス。おつりがないように払うの？ いいえ、1ポンド渡すわ。

誰が洗濯をするの？ お父さんよ。自分の洗濯物を手で洗ったりする？ いいえ、日曜日に全部私がします。アイロンがけは誰がするの？ お父さんよ。シャツにアイロンをかけるとうるさいの。でも、ウェンドウッド校にいたときは自分でアイロンをかけたでしょう？ ええ、でもお父さんはうるさいので。

(タラは大学が手配した老人ホームでのボランティアを週に1日行い、そこでした仕事を日誌に記した。この日誌を自分自身で困難なく書いた。たとえばお茶を入れたり、食器を洗ったり、料理をしたりしたことがたくさん書かれていた。彼女は誰かが亡くなるとメモにつけ非常に悲しんだ。スタッフの報告によると、タラは毎日一生懸命仕事をしたと報告されている。)

ここでは野菜を料理するのですか？ スタッフが料理を終わるころにはジャガイモも残ってないの。老人ホームでするのがいやなことはある？ 全部好きよ。そこで働くのが好き。台所用品をきれいに磨くの。夕食のために人参を切ったりして料理するの。

ここでは掃除したり、磨いたりするの？いいえ。どうして？そうすればお父さんがしなくても良いじゃない？お父さんが大変じゃない？娘さんにすこしでも手伝ってもらったらどうかしら？お父さんは日曜日は自分のペースで進めたいのよ。いつも私が一緒に何かをするのが嫌なの、そうよね。以前、娘は洗濯物を外に干していましたが、止め方が悪くてそこら辺いっぱいに散らかるのです。訪問介護士が金曜日の4時から6時の間来ます。そして娘がカレッジから帰ってから買い物に連れて行き、私も一緒に行きます。訪問介護士とは、誰ですか？娘を連れて行ってくれる人です。キーワーカーですか？いいえ、彼女はタラのような人々の世話をする人です。彼女は、車であなた方二人を連れて行くのですか？

はい。私たちは土曜日に買い物にでかけ、買い物バッグを持ち、タクシーで帰ってきたものです。

もう家に帰らなければならないのよ。でも、私はまだ話し終わっていません。じゃあ話して、私はあなたが書いて話し終わるのを座って待っているから。急いで、もう帰らないと。後で手紙を書くから返事をちょうだい。

私には、生理がありません。お父さんは、生理が嫌いでした。お父さんが注射で生理を止めさせたのですか？はい。私は、汚く散らかるのが我慢できませんでした。床の上が血だらけになるのです。

ブルース

ブルースはウェンドウッド校卒業生のうちでもコミュニケーション能力が低く、そのため特に両親は困っていた。ブルースは、ダウン症であり赤毛でハンサムな28歳である。家で生活を始めてから、彼は最終のウェンドウッド校での評価で記録されているなかの11の技能を失った。彼は、母と一緒に受けた面接で、コミュニケーションが取れなかったため、ついには2階へ引っ込んでしまった。彼は、森をバックにした庭と、プールのあるとても美しい住宅街の大きな家に住んでいる。しかしながら、小さな商店が角にはあるが、公共の乗り物、パブ、また自立を助けるものは近くにない。地域の成人センターに通い、その一方で彼の両親は定年が近づいているので、長く住める家を探している。

彼の母親は、自分の時間のほとんどを彼のために捧げてきた、そして彼は28歳

であるにもかかわらず、まだ子どもとしてみなされていた。母親の言うことは過保護に思えたが、自分の子どもをアダルトチルドレンとして過保護に扱っている親たちも、ブルースの親の意見と同じようなことを口をそろえて言っている。

母親が話したマックインタイヤー団体は、ほとんどの親と卒業生によって自分たちのニーズの全てをほとんど実現する団体として認識されていた。第2章のアンジェラは彼女が生活するための最も好ましい場所としてそこを考えていたし、第5章におけるジリアンとその母親も同様であった。他の章においても見られたように子どもがお金を巻き上げられたり、虐待されたりすることについて心配する多くの親がいる。ブルースの母親の意見は、人びとが精神遅滞児の様々な条件をもっとよくするために、もがき苦しんでいた時に、メンキャップのような組織で日々働く多くの親の様々な感情を反映していたと言える。

母親

息子はウェンドウッド校を卒業した時にやっていたのと同じことを今もやっています。もし刺激がなくなってやる気がなくなったら息子は落ち込みます。今でもそうなったことがあります。卒業の時できていた日常のことを今ではできないこともあります。タクシーは朝8時に来ますが、調子が悪い時には1日中仕事をするのは無理だろうと思って1週間のうち何日かは休ませることもあります。本当に病気でなくても気分が悪そうなときは休ませます。時々「まあ良いわ、行かせよう、そしたらせいせいする」と思うこともあるけど、やっぱりできないの。

息子は服を着ることができそうですが、私がいつも彼の身なりを整えて、シャツをズボンの中に入れます。タクシーが来るのに息子の身支度が遅くて、ぐずぐずしているときは手伝います。でも週末には息子は自分で身支度をします。ブルースは、毎晩、風呂に入ります。私は風呂の水の入り具合をチェックします。これは、私の姉妹が、私が彼を甘やかしていると思うところです。私は彼の背中を洗っていると、姉たちは「誰が、あなたの背中を洗うの？」と、私に言います。ブルースは、自分で一応は体を拭きます。電気カミソリを持っていて、私は息子がそれを使うことができると思います、でも、父親は非常に厳格です。彼は陸軍の家系の出身だからです！

休日には、息子さんと何をしていますか？私たちは、休日に息子を一緒に連れ

て行かなくてはなりません。あなたは、息子さんをレスパイトケアに預けないのですか？息子にとっては、休日になりません。私たちは気分転換にコテージへ行きますが、私たちにとって、休日とはなりません。なぜなら、息子も一緒ですから。でも息子も気分転換が必要です。

息子さん教会に行きますか？いいえ、私は行きますので、息子連れに行くこともできますが、連れて行く準備をするまでに息子はとても時間がかかります。週末は平日のように息子を急がせません。息子は、教会にクリスマスとイースターに行きます。私は毎週行きます。息子は、宗派に属しません。なぜなら、宗派を理解するのが宗派に属するうえで重要ですから。一方で、息子が私と一緒にいったとき、牧師は手を息子の頭に置きました。息子が、ワイン好きでないことも問題です。もし吐き出したら、とてもたいへんなこととなります。それが問題なのです。

これまでにレスパイトケアについて考えたことがありますか？ええ、良いと思いますよ。でも偏った見方かもしれませんが、息子も気分転換が必要だと思います。どうしようか迷っているのです。私は「息子をレスパイトケアに入れよう。そしたら簡単だ、…自分だけで、1週間楽しい時間を過ごそう…」、しかし息子も行きたいと思っていると考えるのです。私一人では困難を伴うことになるでしょうから、誰かが一緒に来てくれれば良いと思います。息子をマジョリカにあるプール付きの家へと連れ出したこともあるのです。少し暑かったのですが息子はプールの中で1日の大半を過ごしました。

息子は社交性が余りありません。私はゲートウェイに息子連れで行ったことがありましたが、しかし、そこでは息子に何の有益なこともしてくれませんでした。息子が幼いころ、1度行ったことがあり、そしてヘルパーに息子はコミュニケーションが上手く取れないと告げたのです。そこの長がやって来て、私は口やかましい母親だとみんなの前で告げられました。私はそのことに非常に感情的になって、息子を二度とそこには行かせなかったのです。私は口やかましい母親です、そのとおりです。人がたくさんいるところでは息子はすぐに影響を受け、このような子どもたちは非常に弱いのです。

あなたとあなたの夫は、ブルースといつも余暇を過ごしますか？ヘルパーに月曜日、ブルースの面倒を見てもらいます。そして夫とブリッジをするために月に

一度出かけ、ヘルパーさんをお願いします。夫が時々、私と一緒にいる時間が少ないことを不満に思っているのではないかと思います。私は看護師であり助産師でもありましたが、ブルースのためには、仕事をしませんでした。ブルースのような子どもは自宅にいたいと思っているのですが、正直言って、それはできません。親が忙しいときはなかなかできません。息子たちは自宅にいたいと考えていますが、それは親の問題であって、子どもたちの責任ではありません。母親と同じくらい子どもの面倒を見てくれることは誰もできません。そのような手厚い世話をどこか他の所ができると期待することはできないとわかっています。夫は引退することになっています。そして、私はもう少し夫といっしょにいる時間を設けることができると思います。私たちはブルースを深く愛していますが、多分これからは夫と一緒にいる時間を長く持つべきだと思います。息子は、およそ3年前、地方自治体の運営するホステルに行きました。3～4ヵ月過ごしたと思います。

あなたが彼に会いに行ったとき、彼が動揺していましたか、それともあなたが動揺しましたか？私たちが休みで出かけていたときのホステルの人たちのブルースに対する扱い方に、少し腹が立ちました。私たちがいない間に、息子の部屋を移動させ、それを私たちには言いませんでした。ブルースを台所の近くの汚い部屋へ移らせて、そのことを私たちに伝えませんでした。息子は、前は風呂のすぐ近くの部屋にいましたが、その部屋をスタッフの居間か何かにしようとしたのです。息子がそのホステルに住んでいたときに、職業訓練所に出かけるのもあまり賛成ではありませんでした。職員は息子たちを近くのレジャー施設に連れ出すこともなかったし、連れ出したとしてもパブくらいでした。息子たちはヘルパーに飲み代を払い、帰りに送ってもらえるわけでもなく、素晴らしいレジャー施設があるのに活用もしなかったのです。今、私たちは息子をてんかん症を持つ仲間たちと一緒に毎週末そのレジャー施設に連れて行きます。

息子さんはホステルで、幸せそうでしたか？私は、毎週末、息子連れで帰っているので、何とも言えません。夫は予約したトレーニングセンターにブルースを送って行くことにとても熱心ですが、私はあまり賛成ではありません。息子も気晴らしが必要なのは分かります。もし息子が、適切なケアを受けることができるならば、私たちから離れている必要があります。私たちは年をとってきました

から。息子には情緒的で愛情にあふれたケア、さらに若い男性としての生活という点で、とても多くのケアが必要です。健康が大事ですから、健康に注意してくれる人が必要です。息子は、最もよい状態でウェンドウッド校を卒業しました。

私は、マックインタイヤーの施設で、とてもショックを受けました。マックインタイヤーはすばらしい別荘のような建物です。大きな部屋のある巨大な古い建物があり、一人の女性が私たちを案内してくれました。ダウン症の一人は、ピンクのスーツを着て、ひげを生やしていました。私たちは、まもなく食事をするという棟に行きましたが、食事をする様子はなく、少女がたばこを吸っていました。明らかに、外に買いに行ったようで、マークスアンドスパンサーからたくさん食糧を買っていました。靴も靴下も履いていない若いしょうがい者の一人が、私たちについて来ました。ヘルパーの一人が、「彼女は裸足で歩くのが好きなの。」と言っていました。霜が下りるような寒い秋の日なのですよ。母親はそんな光景を見たらすぐ誤解しますよ。

あなたはブルースのために、ウェンドウッド校に何をしてもらいたかったのですか？私はブルースが刺激を受け、さらに教育をうけるということを期待していました。私は息子が刺激も教育も受けていたけれども、それをずっと続けるのには努力がいると思います。息子は卒業してすぐにやる気をなくしました。全てのことが自分でできないブルースのような子どもに対してどうしたらいいでしょう？ブルースの未来は私の今の目標の一つなのです。

ブルースのために何をしたいか詳しく説明してくれますか？私はせいぜい1時間、あるいは1時間半で行ける遠く離れ過ぎないところに住んで欲しいんです。だから1ヶ月に1度、あるいは2週間に1度来てブルースを連れて帰ることができる場所が良いです。できれば私は彼にもっと若い友達を持って欲しいと思うし、もっとやる気を高めて欲しいとも思っています。若者のカップルと一緒にサッカーボールができて、一人部屋であればいいと思います。

私は、社会福祉事業サービスが、息子の社会生活のために何もしてなかったことに気付きました。レジャーセンターがすぐ近くにあるのに、パブに連れて行くことしかしませんでした。そして、スタッフの飲み物の代金しか払いませんでした。送迎もしませんでした。マネージャーは会議にも決して来なかったし、ソーシャルワーカーも来ませんでした。私は、台所が古くて料理する人数を考えると

不十分だと思いました。12人の居住者のために1つの台所に1台の古い調理器があるだけで、誰も料理したくないので、スタッフが持ち帰りの食事を買いに行かせるのです。

私たちが全面的に同意できない選択の問題があるのです。スタッフが微笑んで、「ブルース、あなたはこれが好きですね?」、と聞くと「はい」と答えます。ブルースがよく世話されて、大切にされていれば、もちろん、私たちがするように、誰も息子を世話できませんが、息子は毎日の日課も嫌ではないでしょう。もちろん誰も私たちのように息子の面倒を見ることはできません。ブルースは、もう、成長した男の子ですよ。もちろん、ブルースはもう青年なのに大人扱いをしないことは良くないことは分かります。私はダウン症の子を持つ親として適しているとは言えません。ブルースを愛していますが、座って、ゆっくり彼を教える時間を設けることができません。私はそうしませんでした、でも、そうしなければならぬのです。彼が喜び続ける限り、愛情深いやり方で、彼の世話をすることを好きです。でも、私は息子に厳しい母親かどうかは自信がありません。

自立生活

とても多くの様々な自立生活形態をみてきたが、それらを分類することは難しい。しかしながら、2カ所は非常にひどいと言える。一つ目は、地域支援法開始以前に、支援付き住居が作られ、ある地域の自治体では、その後何年かは、しょうがい者用に使用されていた。以下で示すように、この住居形態に関係した者全員が、発達しょうがいのある人々のためにそのような形態のサービスが妥当か不安であると述べている。面接は、現在グループホームの担当スタッフと親や卒業生に行った。彼らは自ら進んで自分たち自身のために話をした。

アンドリュー

アンドリューはハンサムで、着こなしも良い28歳の男性である。黒い縮れ毛で、今はガールフレンドの影響を受けたためか、最近では耳にピアスをつけている。彼は喋るのも上手く、時に気の利いたことも言う。マウンテンバイクに凝っていて地元中をマウンテンバイクに乗って走り回っている。彼が当時住んでいた所は使われていない精神遅滞者の病院で、そこは完全に外と分離されていたために地

元の人でさえ、どのあたりにあるのか分からないような所なので都合がよかった。その施設は閉鎖される予定で、彼の病棟にはたった2人しかいなかったが、彼はそこでとても幸せだった。アンドリューが増やした賞賛に値する20の技術は、困難に対処するのに必要であることに迫られて身につけていったものがほとんどであることが明らかであった。

両親

息子はウェンドウッド校へ行き、その後帰郷してからは私たちと一緒に暮らしました。家からトレーニングセンターに通い、そこに通っている間、地区評議会が運営する支援付き住居プログラムを紹介されました。息子がそこにいる間、住居の妻は先生の仕事について、支援つき住居の運営を続けることができなくなりました。そこで別の住居を見つけ、息子は昨年今頃まで3年間そこにいました。それから息子は家で暮らすようになりました。最後の支援付き住居にいる時、息子はうつ病の発作がありました。息子を怒らせることがあったのです。

あなたはそこが好きでなかったのね、アンドリュー？はい、だから僕は逃げました。逃げてどこに行ったの？いろんな所です。外で寝たの？はい。どの辺で？町で。他の人は寝ていましたか？いいえ。誰かがあなたを追い出しましたか？いいえ。警察に見つからなかったの？最後には見つかりました。警察に見つからないように隠れましたか？ 私は眠っていました。

息子は自転車に飛び乗り、急にいなくなりました。初めていなくなったのは、家で暮らしている時でした。急にいなくなるのは、いつも異性と何かあったときのようなものでした。困ったことに女の子との問題です。それは、これまでに5～6回起こりました。私たちは、息子がなぜ自転車に乗ってどこかに行ってしまうのかわかりません。彼もどんな理由でどこに行っているか理解していません。最初は、私の友人が隣の村で息子を発見しました、そして、私たちに電話して、息子を送り返しました。そして、まるで何も起こらなかったように、息子は戻ってきたのです。昨年の今ごろのことですが、息子は女の子の家に荒々しく侵入をして、ドアを破損し、世間一般にいう迷惑を起こしていました。息子は自分で何をしていたのか理解していなかったのです、上の空でした。女の子の家族は警察に届けて、息子は警察に捕まりました、そして警察は家主に連絡しました。息子

は相手の家に損害を与えたのですが、家主が警察を説得し、刑務所から連れ出してくれました。家主は、何が起こったのか説明しました。その時から、息子の状態は徐々に悪化しました、そして更に悪いことに結局は、家主は息子に上手く対応できなくて、一般開業医（GP）を呼び、病院に入院させました。息子は12月から2月までそこに入院し、かなり深刻な状態でした。

考察

本章では、イギリスのウエンドウッド校における在宅生活を取り上げている。ここで取り上げられている例は同校を卒業後、学習しようがいを持ちながらも在宅で生活している青年の自立生活に向けての自己の努力と彼らを取り巻く周囲のスタッフの援助について、彼ら自身の言葉によって述べられている。その中には、援助者である「親」と、自立を目指す「子」との葛藤が見え隠れする。また子を思うあまり自立に向けての行動を妨げている親の姿も垣間見ることができる。しようがいを持つ子に対しての接し方、またその接し方が本当の意味で「子」自身にとってのニーズを満たすことができているのだろうか。さらに、在宅生活を送ることは本人にできる能力の多くを失うとされていた。それは過保護になる傾向が強く、特に高齢になった時の親の生きがいは子どもの幸せであり、自分で子どもを育てたがるからに他ならない。もちろん親自身もそれがよくないことを理解しているし、子どもを全く信じていないわけではない。ただ自分の子をどうすればいいかわからないといった様子もあり、必要以上に過保護になってしまうようである。そのことが結果として、無意識のうちに子どもの自立能力を失っているのだろう。しかし、在宅生活をしたとしても全員が同じ結果に結びつかない。アダのようにほぼ独立した生活を送れているケースもある。それに在宅生活は誰を話題の中心にしても賛否両論となるだろう。実家に暮らしている場合、すねかじりだという人もいれば、親は安心できるという人もいる。また都合がいい所を選んだだけという人もいれば、親孝行だといわれることもある。

在宅生活を送ることで問題としなければならないことは、そのことが本当に自立生活からかけ離れていくことと深く結びついているかどうかという点だ。本章では在宅生活をあまり肯定的に捉えてはならず、むしろ否定的な意見が強かった。

そのため、状況を打破するために家から離れたところに住むべきだという意見があったが、そういったことが根本的な解決に結びつくとは思えない。どこで住むかということはあまり問題ではないだろう。確かに在宅生活を送ることは危険が少なく、安全である。それは自分がやらなくてはならないこと全てを親が代わりにやってくれるからだ。このことは能力を奪うきっかけともなり、悪影響といえるかもしれないが、そのことが結果的に良い方向に転換するきっかけにもなるかもしれない。自宅は、安全性が高く、分からないことを親と一緒に勉強できる空間だと考えられるし、社会性にしても親の理解の有無によって十分に自立能力は高まるだろう。そう考えると、子どもに対する親の認識の違いによって自立能力を大きく左右するのだと思われる。もちろん自立生活の能力の低下の原因は親が全てだと言うわけではない。子ども自身にも問題はあつた。居心地の良さからそこでは何もしない。親に甘えるといったことも十分あるだろう。

大学院に教えにきたアメリカの先生が以下のような話をしてくれた。アメリカではある年齢に達すると家から子どもを出して自立心を促す習慣がある。これは何も親が無理に子どもを追い出すというものではなく、本人の方から進んで家を出たいと言い、自立しようとする。それは能力の有無に左右されるものではないし、子どもを信じているとか信じていないとかいうことではない。当然、子どもは自炊や洗濯、掃除もまともにできない。経済力も乏しく、その日暮らしたが子どもが親に助けを求めてくるということはまずない。それは親が簡単に助けてくれるわけがないということを子どもが十分理解しているし、あくまで自分から家を出たいといったことに対して嘘をつきたくないという気持ちが強いからだ。親の方もよっぽどのがなければ助けず、一見すると厳しいようだが、あくまで子どもの心を尊重したいといったものらしい。同じ家族でいながら全く違う場所に住み、その生活費全てをあくまで自分でバイトなどをしながらつくる。この考え方が当たり前だと考えていたようで、むしろ日本のように親元から離さない親や離れない子どもが不思議だと話していた。当然日本の子どもの馬鹿にしているというものではない。大切なのは自分に自信をもつべきだということである。親離れ、子離れという言葉があるように互いに信頼して離れていかなければならないことの重要性の確認である。「この子にはできない、この子のために」といった別のやさしさをもつ親、その言葉を真に受けて前に進もうとしない子どものい

る現状を打破することが大切なのだ。能力を失うのはたやすいが獲得することは容易ではない。在宅生活も悪いものではない。ただ自立を遅らせるきっかけになってしまうのだ。その意味では家族関係が自立において重要なことになってくるのではないだろうか。

それぞれの家族によって子どもに対する接し方や生活スタイルは違っている。それぞれのケースを通して考えさせられたことは、何をもって子どもの自立とするかということである。自立は決して家族の中だけではなしえないことである。しかし、本章で紹介された家族たちは自分たちの中で本人を支えていくことに焦点をあて日々奮闘している。それがたとえ過剰なまでのことがらであったとしても、家族たちは必死なのである。このことが、自立の妨げになっているのでは本末転倒である。そして、次は子離れという、家族の「子どもからの自立」である。おそらく、家族が自分たちの子どもの幸せを願い、支えていきたいという気持ちのもとで一緒に生活をしていることだと思うが、それだけでは本当の自立とはいえない。相互に関わり合って生活することと、お互いが寄りかかりながら生活することでは意味合いが違って来る。子どもと親たちの良い意味での相互の関係性のもと、文字通り自ら立って生活していけるスキルを身につけていくことこそ、本当の自立ではないだろうか。自立した生活が送れるようになるよう、より身近な在宅生活の中で子どもと家族がお互いの役割を把握し、将来の自立に向けて進んでいくことが重要ではないだろうか。